

1月19日（日） リヤド（サウジアラビア王国）

19日の午前にはリヤドへ到着し、空港からバスで視察先へ移動した。バスから見える都市の様子は、広大な砂漠地帯に、高層ビルや現代的なインフラの建設予定現場が多く目立った。リヤドの気候は典型的な砂漠気候で、夏は非常に暑く、冬は比較的温暖で、視察した時期は日本の秋に近い。今回のリヤド訪問は、2025 大阪・関西万博の次の万博開催地であり、2025 大阪・関西万博においてもサウジのパビリオン出展に力を注いでいただいていることから、2025 大阪・関西万博開催に向けての動向と 2030 リヤド万博に向けての動向を視察することを目的とした。サウジは「サウジ・ビジョン 2030ⁱ」（以下「ビジョン 2030」と記す）を 2016 年に策定しオイルへの依存度を減らし多様化経済と観光振興も含めた戦略的取り組みを示している。視察の移動はバスを用いたが、車社会であるため渋滞も多く、視察先への到着が遅れた箇所もある。広大な土地には今後の開発が多く計画されており引き続き注目が必要な都市である。

視察行程 1：「キディア・シティⁱⁱ」現地視察

【キディア・シティの概要】

サウジは、「ビジョン 2030」の都市計画において、開発途上の 6 つのチャレンジングと言える総額 7 兆ドルのランドマークギガプロジェクトを掲げており、そのひとつが「キディアシティープロジェクト」である。2025 年現在において首都リヤド近郊の高さ 200 メートルのトゥワイク山脈に建設中である。エンターテインメント、スポーツ、芸術のハブを目指しており、居住区やホテル建設も計画されている。このプロジェクトにはスポーツ・ウェルネス、自然・環境、公園・アトラクション、移動・モビリティ、芸術・文化という 5 つの主要な柱がある。開発面積は 360 平方キロメートル以上の面積となる。日本のアニメ「ドラゴンボール」の世界初テーマパークの計画も発表された。

【キディア・シティ建設地視察内容】

視察団は、まず施設内にあるプレゼンテーションオフィスで開発担当者から、この施設の建設目的、建設内容及びスケジュールなどの説明を受けた。キディア・シティは、エンターテインメントの中心地として、世界クラスのテーマパーク、ウォーターパーク、アトラクションを備えたエンターテインメントのハブとして計画され、著名な国際ブランドとの協力により、ユニークで魅力的な体験が提供される予定である。どのアトラクションも「世界一」を目指しているとのことである。

説明後には、視察団からはそれぞれのアトラクションに関して、コンテンツ開発の方法や建設における課題など質疑応答があった。説明と質疑の終了後は、バスの車中から広大な建設現場を約 1 時間強かけて視察を行った。

建設現場は、はっきりと形となった施設は確認できなかったが、世界一高く、長く、早いジェットコースターの線路が自然の山をくり抜き設置されていた。ウォーターパークの

エリアでは、スライダーの一部が確認できたため、パークのイメージができた。キディア・シティはスポーツ施設やアウトドアアクティビティの場としても注目されており、サッカー場など多様なスポーツを楽しむことができるエリアもあり、国際的なスポーツイベントの開催地として新しい拠点を目指している。ほかに宿泊施設として、高級ホテルやリゾートなどのエリアも存在している。



キディア・シティ建設地にて



キディア・シティについて説明を受ける様子

視察行程 2 : 「キディア投資会社」視察

【キディア投資会社 (Qiddiya Investment Company) の概要】

キディア投資会社は、ムハンマド・ビン・サルマン皇太子ⁱⁱⁱが指揮する PIF (パシフィックインベストメントファンド) から全額出資を受けている会社 (2018 年設立の非公開株式会社) である。PIF は、主要観光地としてのサウジの地位を高めることを目指して設立されており、キディア・シティに対する出資もこの街を世界一のエンターテインメントシティーにすることを目指している。出資先である PIF は、サウジ政府系ファンドであるため、「ビジョン 2030」を推進するために非石油 GDP の成長に貢献し、多様なセクターに投資することでサウジの富を発展させることを目指すとしている。

【企業訪問内容】

キディア・シティへの視察後、バスで移動し、キディア投資会社へ訪問した。

アブドゥラ・ビン・ナセル・アル・ダウード CEO 及び団長によるあいさつ、団長からアブドゥラ・ビン・ナセル・アル・ダウード CEO に記念品の贈呈及び集合記念撮影を行った。

キディア投資会社が担う役割について説明を受けた。ミーティングへの参加は、CEO 及びボードメンバー 3 名。ボードメンバー 3 名は、出資会社 PIF の役員でもあり、キディア・シティの開発に対しての決定権者でもあるとのこと。本部機能として、キディア・シティに対するマーケティング部門と管理を専門に担当するエグゼクティブオフィスであることの説明を受けた。キディア投資会社は、サウジにおける大規模なエンターテインメント、

スポーツ、文化プロジェクトであるキディア・シティの開発を担当する企業である。プロジェクト開発と管理をしており、国際的なパートナーシップを築き、世界的なブランドや専門家と協力してプロジェクトの成功を目指している。キディア投資会社は、「ビジョン2030」の目標達成に向けた重要な役割を担っており、キディア・シティは、国内外からの観光客を引きつけることで、経済成長と地域の活性化に寄与することが期待されている。プロジェクトの進行に伴い、多くの雇用創出、地元経済の発展促進、地元の人々に新しい職業の機会を提供、地域社会への貢献を重視している。キディア投資会社は、サウジの未来を形作る重要なプロジェクトの一端を担っており、その進捗は国内外で注目されている。

建設にあたり、コンテンツの開発や戦略的な広報の手法や大規模建設における進捗管理など多岐にわたる業務についての説明を受けた。説明後のディスカッションでは、ファンドとしての経営指標（ROI, ROE, KPI）を質問したが、国営のファンドであるので、明確な数字というよりも、キディア・シティのスピリットやビジョンを共有できる事業会社を誘致し、その会社ごとの経営目標でのROI、ROEを設定しているとの回答であった。サウジでも物価高騰や労働者不足が課題になっていることであった。



アブドゥラ CEO（前列左から4人目）らとともに（左）

意見交換をしている様子（右）

ⁱ 主な構成は①活気に満ちた社会、②反映した経済、③野心的な国家の3分野。

ⁱⁱ Qiddiyaはサウジアラビア国内最大級（シンガポールもしくは名古屋の面積に相当）のスポーツ・エンターテインメント・文化拠点。本施設にはドラゴンボールテーマパークも含まれ以下のURLで確認できる。
<https://qiddiya.com/qiddiya-city/>

ⁱⁱⁱ 1985年8月31日生まれ。外務省。 “サウジ王国ムハンマド・ビン・サルマン副皇太子兼国防相”。外務省
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000182987.pdf>. （参照2025年2月22日）